

戦後ふくしまの考古学 2

—高度経済成長期の発掘調査—

東北自動車道・東北新幹線 関連遺跡の調査概要

福島県文化財センター白河館

2024

目次

東北自動車道関連遺跡の概要

1 桑折町 平林遺跡	1
2 郡山市 壇ノ腰遺跡	1
3 福島市 八景腰巻遺跡	1
4 二本松市 塩沢上原A遺跡	2
5 二本松市 塩沢上原B遺跡	2
6 二本松市 田地ヶ岡遺跡	2
7 国見町 川原遺跡	3
8 福島市 大窪遺跡	3
9 須賀川市 一斗内古墳群	3
10 泉崎村 観音山・観音山北横穴群	4
11 須賀川市 梅田横穴群	4
12 白河市 七斗蒔遺跡	4
13 大玉村 天神堂・筋向・高野遺跡	4
14 白河市 下原遺跡	5
15 矢吹町 三峰森・堰ノ上遺跡	5
16 郡山市 出磐山遺跡	5
17 郡山市 勝利ヶ岡遺跡	5
18 郡山市 中柵遺跡	6
19 鏡石町 林合遺跡	6
20 鏡石町 二夕通り遺跡	6
21 鏡石町 仏具壇遺跡	6
22 矢吹町 狐石遺跡	6
23 本宮市 金重谷地遺跡	6
24 郡山市 高林遺跡	7
25 国見町 厚樫山遺跡	7
26 福島市 上岡・堰下遺跡	7

東北新幹線関連遺跡の概要

1 西郷村 道南遺跡	8
2 白河市 泉川遺跡	8
3 白河市 赤坂裏遺跡	8
4 天栄村 芹沢遺跡	9
5 天栄村 三合谷地遺跡	9
6 天栄村 古屋敷遺跡	9
7 須賀川市 岩淵境遺跡	9
8 須賀川市 治部池横穴墓群	10
9 須賀川市 初山遺跡	10
10 須賀川市 御所館遺跡	10
11 郡山市 道場遺跡	10
12 郡山市 梅沢館跡	11
13 郡山市 皆屋敷遺跡	11
14 本宮市 御前遺跡	11
15 福島市 孫六橋遺跡	11
16 桑折町 二本木遺跡	12
17 郡山市 徳定遺跡	12
18 二本松市 矢ノ戸遺跡	12
19 須賀川市 小屋館跡	13
20 郡山市 鳴神・柿内戸遺跡	13
21 福島市 御山千軒遺跡	13

【一覧】

東北自動車道・東北新幹線関連遺跡位置図	14
東北自動車道関連調査遺跡一覧	15
東北新幹線関連調査遺跡一覧	17

東北自動車道関連遺跡の概要

福島県教育庁文化課編 1975『東北自動車道遺跡調査報告』福島県教育委員会より

1 桑折町平林遺跡 (1972・73年発掘)

本遺跡は福島盆地のほぼ北端、奥羽山脈の山麓の丘陵上に位置する旧石器時代の遺跡です。石器は、II層(灰白色粘土層)とIII層(黄色粘土層)から400点あまりが出土しました。石器組成は、**台形様石器**・「**切出形ナイフ**・**削器**・**楔形石器**・**基部調整石器**などからなります。石材は地元産の**流紋岩**を多用され、**珩質頁岩**や**玉髓**、**鉄石英**なども使用されています。資料の中には分厚く、規格的ではない**縦長剥片**が含まれることから、**石刃技法**が発達する以前の段階、つまりは後期旧石器時代初頭の石器群(約3.8万年前)に位置付けられます。



平林遺跡位置図 (25000分の1)

2 郡山市壇ノ腰遺跡 (1970年発掘)

本遺跡は郡山市西部の大槻原とよばれる台地上にある縄文時代の遺跡です。見つかった遺構は直径4mほどの**竪穴住居跡**1軒で、縄文時代中期前葉頃(約5400～5100年前)の所産と考えられています。この住居跡の床面中央からは50×60cm、深さ20cmほどの**炉跡**も見つかっています。土器は主に関東平野に分布する**五領ヶ台式系**・**阿玉台式系**と東北地方南部に分布する**大木7a・7b式系**の土器群からなります。当時は、東北地方南部で関東系の土器の発見例が少なく、資料の位置づけをめぐる議論となりました。



壇ノ腰遺跡位置図 (25000分の1)

3 福島市八景腰巻遺跡 (1972・73年発掘)

福島市の摺上川北岸の低位段丘面上に位置する縄文時代の遺跡です。見つかった遺構は、**竪穴住居跡**6軒・**土坑**24基・**土器埋設遺構**5基などで、これらの多くは縄文時代中期前～中葉頃(約5400～4800年前)と考えられています。中期中葉の大木8a式期の住居跡からは50×100cmほどの**長方形の石囲炉**が見つかりました。さらに大木8b式期の住居跡からは土器を埋設した**長方形の石囲炉**が見つかるなど、この時期の炉の形態の変遷を考える上で重要な知見が得られました。また、本遺跡からは、整理箱に換算すると635箱の縄文土器が



八景腰巻遺跡位置図 (25000分の1)

出土したと報告されています。

4 二本松市塩沢上原A遺跡 (1971年発掘)

本遺跡は東北本線二本松駅の北方約3.5kmにあり、^{しおざわうえはら}あだたら山麓からのびる台地上に位置する縄文時代の集落遺跡です。発見された竪穴住居跡20軒の内19軒からは、縄文時代中期後～末葉頃(約4800～4400年前)の大木9・10式土器とともに、「^{ふくしきろ}複式炉」とよばれる、この時期を代表する炉跡が見つっています。報告では、複式炉を塩沢型(発達期)と原瀬型(退化期)に分け、変遷案が提示されました。

また、本遺跡からは段ボール箱にして60箱を超える縄文土器が出土し(報文まま)、当該期の土器編年を考える上で重要な資料群として知られています。

5 二本松市塩沢上原B遺跡 (1971・72年発掘)

本遺跡は塩沢上原A遺跡に隣接し、同じ台地上に位置する縄文時代の遺跡です。時期は塩沢上原A遺跡とほぼ同じで、縄文時代中期後～末葉頃の集落遺跡と考えられています。竪穴住居跡は9軒発見され、その中でも4号住居跡では複式炉内に2個、その周りに5個の縄文土器を埋設するなど、あまり類例のない炉跡も見つっています。また、^{とって}把手の付いた異形土器やミニチュア土器といった特殊な器形の土器や妊婦形をした中空土偶も見つっています。

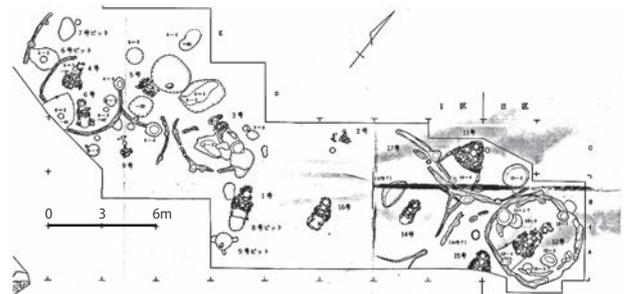
6 二本松市田地ヶ岡遺跡 (1971・72年発掘)

本遺跡は東北本線二本松駅の北方約2.5kmにあり、^{でんちがおか}あだたら山麓からのびる台地上に位置する縄文時代の集落遺跡です。竪穴住居跡23軒のほか、土坑22基・土器埋設遺構7基などが発見されました。遺構の主たる時期は、縄文時代中期末葉の大木10式期(約4600～4400年前)です。ほとんどの竪穴住居跡からは、土器埋設部・石組部・前庭部から構成される「複式炉」が発見され、その構造や機能について議論が行われました。

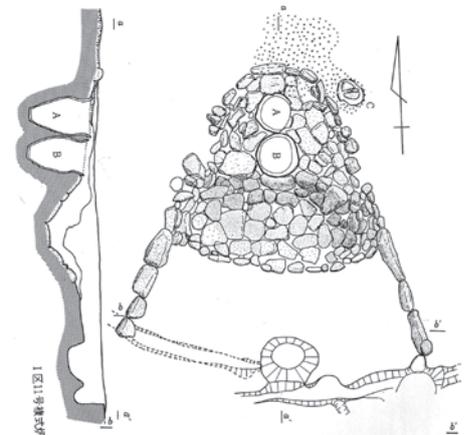
報告者の一人である^{うめみやしげる}梅宮茂氏は、この特殊な炉跡が^{あだたら}あだたら山麓域を中心とした約75kmの範囲に濃密に分布することから、「複式炉文化圏」の存在を指摘しました。



塩沢上原A遺跡位置図(25000分の1)



塩沢上原A遺跡遺構配置図



塩沢上原A遺跡複式炉



田地ヶ岡遺跡位置図(25000分の1)

7 国見町川原遺跡（1973年発掘）

本遺跡は東北本線藤田駅の西北西約700mにあり、滝川沿いに広がる扇状地上に位置する縄文時代の遺跡です。自動車道建設の工事中に「地表面下1.5mのコンクリートパイプの間から縄文土器が見つかった」との報を受けて、急遽、発掘調査が行われました。見つかった遺構は、縄文時代後期中葉の遺物包含層（土器集積遺構）で、湿地性の堆積物の中から3000点以上の縄文土器が出土しました。

また、土器類とともにかなりの量の植物遺体が発見されました。報告者である目黒吉明氏は「植物遺体は土中から掘り出された時点ではかなり鮮明な色彩を呈していたが、外気にふれると見る間に退色した」と記しています。

8 福島市大窪遺跡（1972年発掘）

本遺跡は東北本線松川駅の西方4.3kmにあり、水原川の氾濫原の中にある狭小な微高地上に位置します。見つかった遺構は、竪穴住居跡2軒と土器埋設遺構6基などです。出土した縄文土器は、コブ状の小突起を有し、複数の沈線や刺突列点文などを組み合わせて文様が描かれています。これらの特徴をもつ「コブ付土器」は、縄文時代後期後～末葉の東北地方に広く分布する土器群として知られています。このほかに、土偶の頭部片や耳栓（耳飾りの一種）なども出土しています。

9 須賀川市一斗内古墳群（1969年発掘）

本遺跡は須賀川市街地の北西、初山集落の近くの台地上に位置する古墳群です。直径5～12m程度の小円墳6基からなる群集墳で、その内、5基の調査が行われました。

埋葬施設として横穴式石室が確認されていますが、調査時点では天井石がなくなっていました。副葬品としては、耳環・刀子・鉄鏃・直刀・弭が出土しています。時期を示す遺物が少ないですが、鉄鏃から古墳時代終末期（7世紀）の古墳群と考えられます。



川原遺跡位置図（25000分の1）



大窪遺跡位置図（25000分の1）



一斗内古墳群位置図（25000分の1）

10 泉崎村^{かんのんやま かのんやまきた}観音山・観音山北横穴群（1969・71年発掘）

両横穴群は西白河郡泉崎村^{いませ}踏瀬の集落の西に広がる丘陵の一つ、地元では観音山とよばれる山の中腹にあります。この山の下腹部には「観音山磨崖供養碑群」があり、現在、この石造物は東北自動車道の高架下に保存されています。

南側の観音山横穴群には17基、北側の観音山北横穴群には7基が確認されています。観音山横穴群は、大正3年に偶然発見され、その多くが地元住民の手によって発掘調査がなされています。そのため、1969年の発掘調査時点では副葬品としては刀子と刀装具だけが出土しました。

観音山北横穴群は工事中に発見され、急遽調査が行われました。副葬品は3号横穴^{せんどう}の羨道部^{わらびてどう}から藤手刀が出土していますが、それ以外に横穴墓の造営時期を示す遺物はほとんど出土していません。各横穴の造営時期には不明な点が多いですが、そのほとんどは7世紀～8世紀の所産と考えられています。

11 須賀川市^{うめた}梅田横穴群（1969年発掘）

本遺跡は須賀川市の釈迦堂川沿岸、新屋敷の集落の北方にある岩山に穿たれた横穴群です。確認された横穴は11基で、7世紀末の古墳時代終末期の所産と考えられています

12 白河市^{なとまき}七斗蒔遺跡（1969年発掘）

本遺跡は白河市の北端、旧奥州街道と会津街道、さらには現在の国道4号が三叉する地点より北西に約700m隔てた丘陵にあります。遺跡の付近の丘陵は古くは日向山^{ひなたやま}とよばれていました。

見つかった遺構は竪穴住居跡7軒で、それぞれが狭い範囲に重複していました。

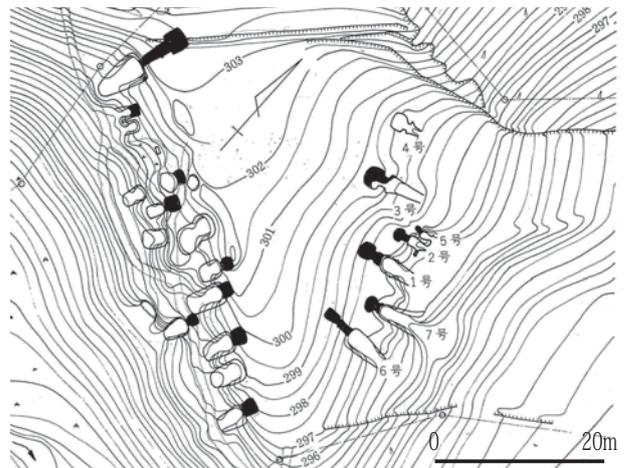
住居跡からは古墳時代、平安時代の土師器・須恵器が出土しています。特に、古墳時代中期・後期の土器がまとまって出土していて、それぞれの時期におけるセットが把握できる重要な資料群です。

13 大玉村^{てんじんどう すじむかい こうや}天神堂・筋向・高野遺跡（1971年発掘）

3遺跡は安達郡大玉村のほぼ中央、安達太良山麓からのびる扇状地の末端に位置します。周辺には前方後



観音山・観音山北横穴群位置図（25000分の1）



観音山・観音山北横穴群配置図



梅田横穴群位置図（25000分の1）



七斗蒔遺跡位置図（25000分の1）

円墳として知られる^{ふたごづか}二子塚古墳があります。天神堂遺跡では焼土がまとまって出土し、その周りから若干の土師器が出土しました。筋向遺跡では湧き水から発する溝跡が検出され、その中から平安時代の土師器や須恵器が多量に出土しました。高野遺跡では古墳時代後期の竪穴住居跡2軒などが発見されています。

14 白河市下原遺跡（1970・72年発掘）

本遺跡は白河市^{しろほら}大信下新城^{たいしんしもしんじょう}に位置し、調査箇所は現在、矢吹インターチェンジとして供用されています。本線部分をA地点、乗り入れ線部分をB地点として発掘調査が行われました。

A地点からは竪穴住居跡2軒・掘立柱建物跡1棟、B地点からは竪穴住居跡6軒・土坑2基などが発見されました。このなかでもB地点7号ピットとよばれる土坑からは、奈良時代終わりから平安時代初め頃にかけての土師器や須恵器がまとまって出土し、この時期の重要な資料群と考えられています。

15 矢吹町三峰森・堰ノ上遺跡（1970年発掘）

両遺跡は、東北本線矢吹駅の南西約1.5kmに位置し、隈戸川沿いの段丘上にあります。三峰森遺跡からは竪穴住居跡1軒が発見され、その中から奈良時代の土師器などがまとまって出土しました。堰ノ上遺跡からも竪穴住居跡2軒が発見され、奈良時代終わり頃から平安時代の始まりにかけての遺構と考えられています。

16 郡山市出磐山遺跡（1970年発掘）

本遺跡は東北本線郡山駅の西方約6kmにあり、大槻原とよばれる台地に点在する小さな独立丘陵の一つ、古くは出磐山もしくは^{でけいやま}出珪山とよばれた小山の南向き斜面に位置します。発見された遺構は窯跡3基、竪穴住居跡5軒です。窯跡は登り窯式とみられますが、未使用のまま廃棄されたためか、炭化材と焼土塊以外に土器類は出土しなかったと報告されています。竪穴住居跡からは奈良時代の土師器が出土しています。

17 郡山市勝利ヶ岡遺跡（1971年発掘）

本遺跡は郡山市の南部、三穂田町川田の集落から南に0.8kmの丘陵にあり、現在、遺跡の一角は東北自動車道^{あさか}安積パーキングエリアとして供用されています。自



高野遺跡ほか位置図(25000分の1)



下原遺跡ほか位置図(25000分の1)



出磐山遺跡位置図(25000分の1)



勝利ヶ岡遺跡位置図(25000分の1)

動車道建設中に発見された遺跡で、急遽、工事を中止して発掘調査を行いました。

発見された遺構は竪穴住居跡6軒で、これらからは奈良時代から平安時代前期にかけての土師器や須恵器が出土しています。なお、本遺跡は1994年に安積パーキングエリア拡幅工事に伴い、再度、発掘調査が行われ、平安時代前期の竪穴住居跡6軒・掘立柱建物跡26棟などが見つかりました。

18 郡山市中柵遺跡(1970年発掘)

本遺跡は郡山市の西部、大槻小学校から西へ0.4kmほど行った平坦な台地上に位置しています。

見つかった遺構は奈良時代末から平安時代前期の6×7mほどの竪穴住居跡1軒のほか、それより小規模の竪穴状遺構8基などです。竪穴状遺構はカマドや柱穴などがなく、簡易的な建物跡だと考えられています。これらからは鍛冶炉のほか羽口や鉄滓が発見され、工房跡の可能性が指摘されています。また、出土遺物のなかには円面硯などがあり、郡衙などの公的施設との関係性が指摘されています。

19 鏡石町林合遺跡(1970年発掘)

本遺跡は東北本線鏡石駅より北西1.3kmにある仁井田集落の近傍に位置し、釈迦堂川を見おろす小高い丘の上に立地しています。

見つかった遺構は竪穴住居跡10軒で、特に7号住居跡からは羽口や鉄滓などが多量に見つかり、鍛冶工房跡と考えられています。時期は、出土した土師器などから平安時代の前期(9世紀頃)と考えられています。

20 鏡石町二タ通り遺跡(1970年発掘)

本遺跡は東北本線鏡石駅より北西1.2kmにあり、近傍には林合遺跡や仏具壇遺跡がある、釈迦堂川沿岸の小高い丘の上に立地しています。

見つかった遺構は竪穴住居跡1軒のほか、鍛冶工房跡と考えられている遺構が3軒、直径3.5m深さ1.3mほどの円形土坑が1基確認されています。この土坑は工房に伴う水溜め遺構と考えられています。これらの時期は、出土した土師器などから平安時代の前期(9世紀頃)と考えられています。



中柵遺跡位置図(25000分の1)



21 鏡石町仏具壇遺跡(1970年発掘)

本遺跡は二タ通り遺跡の谷を隔てた北側にあり、釈迦堂川を望む集落の一つと考えられています。

見つかった遺構は竪穴住居跡1軒で、多量の焼土や炭化材の存在から焼失した住居と考えられている。この住居からは平安時代前期(9世紀頃)の土師器がまとまって出土し、その中には「臣」の墨書がある土器などが発見されました。

22 矢吹町狐石遺跡(1970年発掘)

本遺跡は東北本線矢吹駅の西1.5kmにあり、隈戸川左岸に面した丘陵地に位置しています。見つかった遺構は竪穴住居跡4軒で、それぞれの住居跡からはカマドが見つっています。出土した土器の年代から平安時代前期(9世紀頃)の所産と考えられます。

23 本宮市金重谷地遺跡(1971年発掘)

本遺跡は東北本線本宮駅の西方約4kmに位置し、大名倉山麓に形成された舌状台地の上にあります。見つ

かった遺構は竪穴住居跡 8 軒と土坑 3 基で、これらの中から平安時代前期の 9～10 世紀代の土師器などが出土しています。

24 郡山市高林遺跡 (1970 年発掘)

本遺跡は磐越西線喜久田駅の北西約 1.5 km にあり、藤田川沿いに形成された段丘面上に位置しています。

見つかった遺構は平安時代前期 (9 世紀頃) の竪穴住居跡 1 軒と中世の溝跡に区画された掘立柱建物跡 (門跡) があります。このほか、縄文時代中期中～後葉頃の遺物が出土しています。なお、中世の遺構群は「高林館跡」に関連する施設と考えられ、天文年間 (1532～1555 年) 以前には廃絶していたとみられています。

25 国見町厚樫山遺跡 (1971 年発掘)

本遺跡は、国見町にある平安時代末期頃の防塁跡です。二重の堀と三重の土塁で形成されていることから阿津賀志山防塁跡もしくは二重堀ともいわれています。

1189 年 (文治 5 年) の阿津賀志山の戦いの主戦場であり、1981 年に国の史跡に指定されています。『吾妻鏡』によれば、付近の住民数万人を 1 か月間、昼夜動員しての大土木工事が行われ、堀の幅は約 15 m であったとの記載があります。1971 年の発掘調査の結果、堀幅の記載が正確であったことがはじめて証明されました。

26 福島市上岡・堰下遺跡 (1972 年発掘)

本遺跡は福島市飯坂町と伊達市を結ぶ国道 399 号沿い (古くは福島電鉄の軌道があった) にあり、摺上川北岸の段丘面上に位置しています。上岡遺跡は、その一角で出土した「しゃがむ土偶」が国重要文化財に指定されるなど、古くから縄文時代の遺跡として知られていました。

東北自動車道の調査では縄文時代の遺物のほか、平安時代の土師器や木器 (曲物など)、灰釉陶器などが出土しました。路線の外側の調査では、中世の所産と考えられる堀や土塁が見つかり、「上岡館跡」と考えられています。



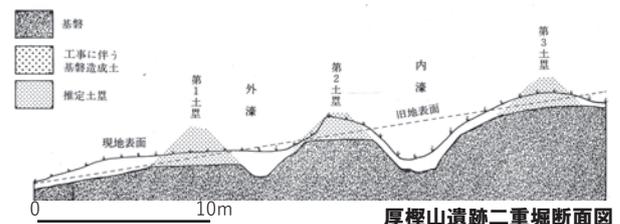
金重谷地遺跡位置図 (25000 分の 1)



高林遺跡位置図 (25000 分の 1)



厚樫山遺跡位置図 (25000 分の 1)



厚樫山遺跡二重堀断面図



上岡遺跡位置図 (25000 分の 1)

東北新幹線関連遺跡の概要

福島県教育庁文化課編1980『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告Ⅰ』福島県教育委員会
福島県教育庁文化課編1980『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告Ⅱ』福島県教育委員会
福島県教育庁文化課編1981『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告Ⅲ』福島県教育委員会
福島県教育庁文化課編1981『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告Ⅳ』福島県教育委員会
福島県教育庁文化課編1982『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告Ⅴ』福島県教育委員会
福島県教育庁文化課編1983『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告Ⅵ』福島県教育委員会より

1 西郷村道南遺跡（1973・74・76年発掘）

本遺跡は西郷村^{どうなん}小田倉^{おたくら}に位置し、現在、東北新幹線新白河駅として供用されている箇所にあたります。西郷村と白河市の境界にまたがり、本遺跡に隣接する白河市区分は道南北遺跡とよばれています。これらは谷津^{やん}田川^たと堀川^{ほり}によって形成された沖積地にあり、駅開発が行われる以前は水田もしくは工場用地として利用されていました。

本遺跡から見つかった遺構は竪穴住居跡4軒・土坑2基などで、特に前者からは古墳時代前期（4世紀頃）の土師器がまとめて出土しました。これらの土師器は今日においても、基準となる資料群として重要視されています。

2 白河市泉川遺跡（1973年発掘）

本遺跡は白河市^{いづみかわ}立小田川^{こたがわ}小学校より西へ1.3kmほど山間に入った泉川貯水池の近傍にあり、沢から少し登った平坦面上にあります。

見つかった遺構は20基の土坑・集石遺構3基で、住居跡などは見つかりません。出土した土器は縄文時代早期から晩期と多岐にわたりますが、主たる時期は縄文時代早期後葉の^{うがしまだい}鵜ヶ島台式期と考えられています。また、石器類では出土した^{こくようせき}黒曜石に対し、フィッシュン・トラック法による産地推定が県内でははじめて実施されました。この時期の遺跡は今日においても稀少で、本県の縄文時代研究において重要な資料群といえます。

3 白河市赤坂裏遺跡（1973年発掘）

本遺跡は白河市^{あかさかうら}大信新城^{たいしんしんじょう}に位置し、遺跡のすぐ西側には^{しのぶだいいち}信夫第一小学校^{くまど}があります。本遺跡は隈戸川によって形成された沖積地上にある、平安時代の集落遺跡で



道南遺跡位置図（25000分の1）



道南遺跡で行われた説明会のようす



泉川遺跡位置図（25000分の1）

す。見つかった遺構は竪穴住居跡3軒で、「中万」と書かれた墨書土器や筒形土器などが出土しています。

4 天栄村^{せりざわ}芹沢遺跡（1973年発掘）

本遺跡は岩瀬郡天栄村小川に位置し、赤坂裏遺跡の北約1.5kmにあります。遺跡周辺には大きな河川はありませんが、湧水している所が多く、随所にため池が設けられている地域です。周辺には縄文時代中期の大集落跡である^{くわなやしき}桑名邸遺跡があり、比較的遺跡の分布が多い地域といえます。

本遺跡から見つかった遺構は竪穴住居跡1軒・掘立柱建物跡1棟・土坑2基で、奈良時代（8世紀代）の所産と考えられています。このほかに縄文時代前期後半の土器片が若干出土しています。

5 天栄村^{さんごうやじ}三合谷地遺跡（1976年発掘）

本遺跡は岩瀬郡天栄村高林に位置し、東北本線鏡石駅の西方約4.8kmの沖積面上にあります。遺跡付近は^{ひろと}広戸川（釈迦堂川支流）などが東流し、沖積面や段丘面を形成しています。

見つかった遺構は竪穴住居跡1軒・掘立柱建物跡1棟・溝跡2条・土坑1基で、平安時代の所産と考えられています。そのうち建物跡は2間×3間の総柱建物跡で、倉庫跡の可能性が考えられています

6 天栄村^{ふるやしき}古屋敷遺跡（1973年発掘）

本遺跡は岩瀬郡天栄村^{いいとよ}飯豊に位置し、三合谷地遺跡の北約250mの地点にあります。

見つかった遺構は竪穴住居跡3軒・掘立柱建物跡1棟・土坑1基で、奈良時代から平安時代（8世紀後半から9世紀前半）にかけての遺構群と考えられています。遺物では「本」「正」の墨書銘がある土師器や「中」の線刻がある土師器が見つっています。これらのことから古屋敷遺跡と三合谷地遺跡は、ほぼ同時期に機能した集落跡と考えられています。

7 須賀川市^{いわぶちさかい}岩瀨境遺跡（1973・74年発掘）

本遺跡は須賀川市岩瀨に位置し、古屋敷遺跡より丘陵を1つ越えた北側約3kmの地点にあります。遺跡は^{えばな}江花川（釈迦堂川支流）の河床より約5m上がった低位段丘面上にあります。



赤坂裏遺跡ほか位置図（25000分の1）



三合谷地遺跡ほか位置図（25000分の1）



岩瀨境遺跡位置図（25000分の1）

見つかった遺構は竪穴住居跡3軒・掘立柱建物跡3棟・土坑2基・溝跡1条・焼土遺構1基などからなります。焼土遺構は奈良時代（8世紀後半）頃の所産とみられ、少量の^{かしさい}鍛冶滓が出土しています。また、2号建物跡は3面^{めんひさし}廂を有するもので、当初3間×3間の建物を東に2間を増築しているとの考察がなされています。

8 須賀川市治部池横穴墓群 (1973年発掘)

本遺跡は須賀川市滑川^{なめがわ}に位置し、郡山市との境にある丘陵の南向き斜面に点在する横穴墓群です。この丘陵にある横穴墓の総数は100基を超えるとみられ、その内、路線内の18基の発掘調査が行われました。

これらは古墳時代終末期から奈良時代にかけて、7世紀から8世紀の所産とみられています。遺物は須恵器大甕^{おおがめ}や長頸壺^{ちようけいこ}、鉄製品では直刀や鉄斧などが出土しています。

9 須賀川市初山遺跡 (1978年発掘)

本遺跡は須賀川市森宿^{もりじゆく}に位置し、東北本線須賀川駅の北西約2.5kmの独立した丘陵にあります。遺跡一帯は通称「十三仏」と呼ばれ、直径8m前後の塚状遺構が10数基確認されています。

本遺跡からは14世紀半ば頃の板碑^{いたび}が285基、礫石^{れきせききょう}経塚294個などが見つかり、県内有数の板碑群であることがわかりました。このほかに礫石経塚なども見つかり、動乱の時代にあった南北朝期の信仰形態を今日に伝えています。

10 須賀川市御所館遺跡 (1978年発掘)

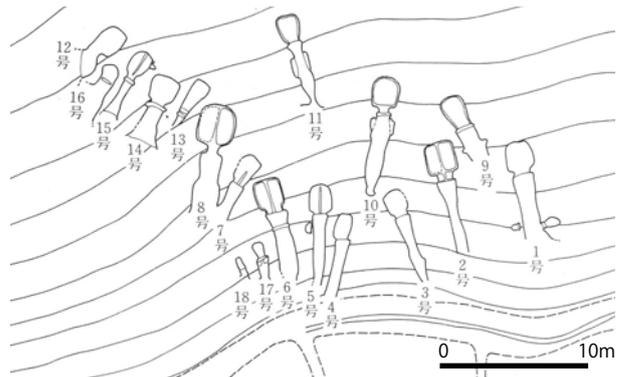
本遺跡は須賀川市森宿^{もりじゆく}に位置し、初山遺跡の北約300mの丘陵上に位置しています。見つかった遺構は竪穴住居跡2軒と木炭焼成遺構1基などです。前者は平安時代前期(9世紀後半)の所産とみられ、土師器などが出土しています。後者は全長7.6mを超える長大な遺構で、平坦面に営まれる伏せ焼き型の木炭焼成遺構とみられ、時期は中世以降の所産と考えられています。

11 郡山市道場遺跡 (1975年発掘)

本遺跡は郡山市安積町荒井^{あさか}に位置し、東北本線安積永盛駅^{ながもり}の北約0.9kmの笹原川^{ささはら}左岸にあります。遺跡は笹原川が阿武隈川へと注ぐ合流点付近にあり、近くには中世の町並みや館跡が発見された荒井猫田遺跡^{あらいねこた}があるなど、一帯は交通の要衝として栄えた場所でもあります。見つかった遺構は竪穴住居跡4軒や土坑7基、塚状遺構などで、主に奈良時代と中世の遺構群と考えられています。特に4号住居跡からは奈良時代(8世紀後半)の土器群がまとまって出土しています。



治部池横穴墓群位置図(25000分の1)



治部池横穴墓群配置図



初山遺跡ほか位置図(25000分の1)



道場遺跡位置図(25000分の1)

12 郡山市梅沢館跡 (1975年発掘)

本遺跡は郡山市日和町梅沢にあり、東北本線^{ひわ}日和^だ田駅の北東約2.5kmに位置しています。遺跡は小規模な段丘面上にあり、周囲は阿武隈川の浸食による谷や崖錐が複雑に入り組んだ地形となっています。

本館跡は4カ所の平場を有し、それぞれを葉研形状の溝跡や土塁によって区切られています。出土遺物は石臼と陶器片など少量に限られていますが、戦国時代末期頃の所産と考えられています。

13 郡山市皆屋敷遺跡 (1973・75年発掘)

本遺跡は郡山市西田町^{おにうた}兔生田^{ごひやく}にあり、東北本線五百川^{がわ}駅の南東約2.5kmに位置しています。梅沢館跡より北に約1.5kmの地点で、阿武隈川を渡った右岸地区にあります。遺跡は阿武隈川との比高差約10mの低位段丘面に立地しています。

見つかった主な遺構は竪穴住居跡3軒・掘立柱建物跡4棟で、このほかに溝跡や土坑があります。遺物は土師器や須恵器、鉄滓などが出土しています。遺跡が営まれた時期は奈良時代から平安時代前期(8世紀後半から9世紀)とみられていて、小規模ながら鍛冶工房を伴っていたものと考えられています。

14 本宮市御前遺跡 (1973年発掘)

本遺跡は本宮市^{ぬかざわ}糠沢字^{れいどう}礼堂にあり、福島県立本宮高等学校から東へ約1.0kmの地点に位置しています。山裾を利用して造ったと考えられる直径7m・高さ1mほどの小墳丘で、付近は古くより礼堂の地名が残っていました。

調査の結果、墳丘の盛り土の中から、土師器や須恵器に加え、近世以降の陶磁器片が混じって出土しました。このことから、古墳であるとの認定にはいたらず、村の境界を示す「境塚」や「供養塚」の可能性が考えられています。

15 福島市孫六橋遺跡 (1976年発掘)

本遺跡は福島市宮代に所在し、東北本線東福島駅の北方約1kmの地点に位置しています。遺跡は摺上川南岸の段丘面上にあり、対岸には八景腰巻遺跡(東北自動車道調査)などの縄文時代の集落遺跡が点在します。



梅沢館跡位置図(25000分の1)



皆屋敷遺跡位置図(25000分の1)



御前遺跡位置図(25000分の1)



孫六橋遺跡位置図(25000分の1)

見つかった遺構は奈良時代から平安時代前期にかけての竪穴住居跡2軒と江戸時代の配石遺構などで、このほかに土坑や遺物包含層が確認されています。遺物包含層からは弥生時代中期前半頃(約2000年前)の弥生土器や石器が見つかりました。これらの資料群は福島県の弥生時代研究上、非常に貴重なものです。

16 桑折町二本木遺跡(1978年発掘)

本遺跡は桑折町南半田に所在し、東北本線桑折駅の南西約200mの地点にあります。遺跡は産ヶ沢川の河岸段丘面上に位置し、河床より約20mの比高差を有しています。

見つかった遺構は掘立柱建物跡6棟・溝跡9条・土坑331基などがあります。出土した土器類は縄文時代前期から晩期、弥生時代中期、土師器、須恵器と多岐にわたります。縄文土器では後・晩期のものが多く、これらとともに多量の石器類が出土しています。

17 郡山市徳定遺跡(1972・74・75年発掘)

本遺跡は郡山市田村町に所在し、東北本線安積永盛駅の東0.5kmの地点にあります。遺跡のすぐ西側に阿武隈川が流れ、河床より約8mの比高がある、沖積地(自然堤防上)に立地します。便宜的に遺跡を南北に分け、南を徳定A遺跡、北を徳定B遺跡として発掘調査が行われました。

見つかった遺構は竪穴住居跡49軒を数え、これらは主に古墳時代から平安時代のものであることがわかりました。また、弥生土器も少量出土し、なかには口縁部に人面を表現した土器(人面付土器)も出土しています。福島県内では複数の文化層がある、沖積地での大規模な発掘調査は初めてで、この時の調査体制や方法などがその後の文化財行政に大きな影響を与えました。

18 二本松市矢ノ戸遺跡(1974～76年発掘)

本遺跡は二本松市安達ヶ原7丁目に所在し、東北本線二本松駅より東へ約3kmの地点にあります。遺跡のすぐ北側に阿武隈川が流れ、河床より約6.5mの比高がある、沖積地(自然堤防上)に立地します。遺構の確認面は地表面から1m以上と深く、この土(砂質土)を除去するのに、新幹線関連調査としてははじめて重機が



二本木遺跡位置図(25000分の1)



徳定遺跡位置図(25000分の1)



徳定遺跡調査風景



矢ノ戸遺跡位置図(25000分の1)

用いられました。

見つかった遺構は竪穴住居跡21軒・掘立柱建物跡6棟、土坑など300基以上と、徳定遺跡と同様に大規模な発掘調査が行われました。遺跡が営まれた時期は、古墳時代から平安時代頃の7世紀前半から10世紀頃です。本遺跡は8～9世紀には古代安積郡あさかぐんの北端に位置し、河川交通の要衝地の集落跡と考えられています。

19 須賀川市こやたて小屋館跡（1975年測量）

本遺跡は須賀川市松塚まつづかに所在し、東北本線須賀川駅の西方約5kmの地点にあります。遺跡周辺には中世城館が多数存在し、中でも稲村御所館跡いなむらごしよたてと新城館跡しんじょうたては比較的規模の大きい館跡として知られています。本館跡はトンネル工事により遺跡の破壊は免れることになりました。

したがって報告書には、事前の測量調査の結果のみを掲載しています。館跡は主郭しゅかくと副郭ふかくからなる連郭式で、大きさは約120×50mと計測されています。主郭には1～2mほどの土塁が残り、その周りに堀跡が確認されています。

20 郡山市なるがみ かきうど鳴神・柿内戸遺跡（1974～77年発掘）

本遺跡は郡山市とくやま ふくはら富久山町福原に所在し、郡山駅の北方約3kmに位置しています。かつては東北本線の東を鳴神遺跡、西を柿内戸遺跡とよんでいましたが、両遺跡とも同じ時期に営まれた集落跡であることがわかり、本報告以後は鳴神・柿内戸遺跡として扱うことになりました。

見つかった遺構は竪穴住居跡49軒、掘立柱建物跡6棟などで、これらの主な時期は7世紀後半から10世紀頃と推定されています。この他に縄文時代の陥し穴おとが153基見つきり、その形態や配置などが議論されました。

21 福島市おやませんげん御山千軒遺跡（1977年発掘）

本遺跡は福島市なかやしき御山中屋敷おんやまなかやしきに所在し、福島駅の北方約2kmに位置しています。福島市のほぼ中央、信夫山の北側の山裾に広がる低位段丘面上に立地しています。遺跡の北側に阿武隈川の支流である松川が東流し、氾濫のたびに流路を変えていたものと推定されています。このため、遺跡周辺には小河川が随所おとにあり、ま



小屋館跡位置図（25000分の1）



鳴神・柿内戸遺跡位置図（25000分の1）



鳴神・柿内戸遺跡の陥し穴

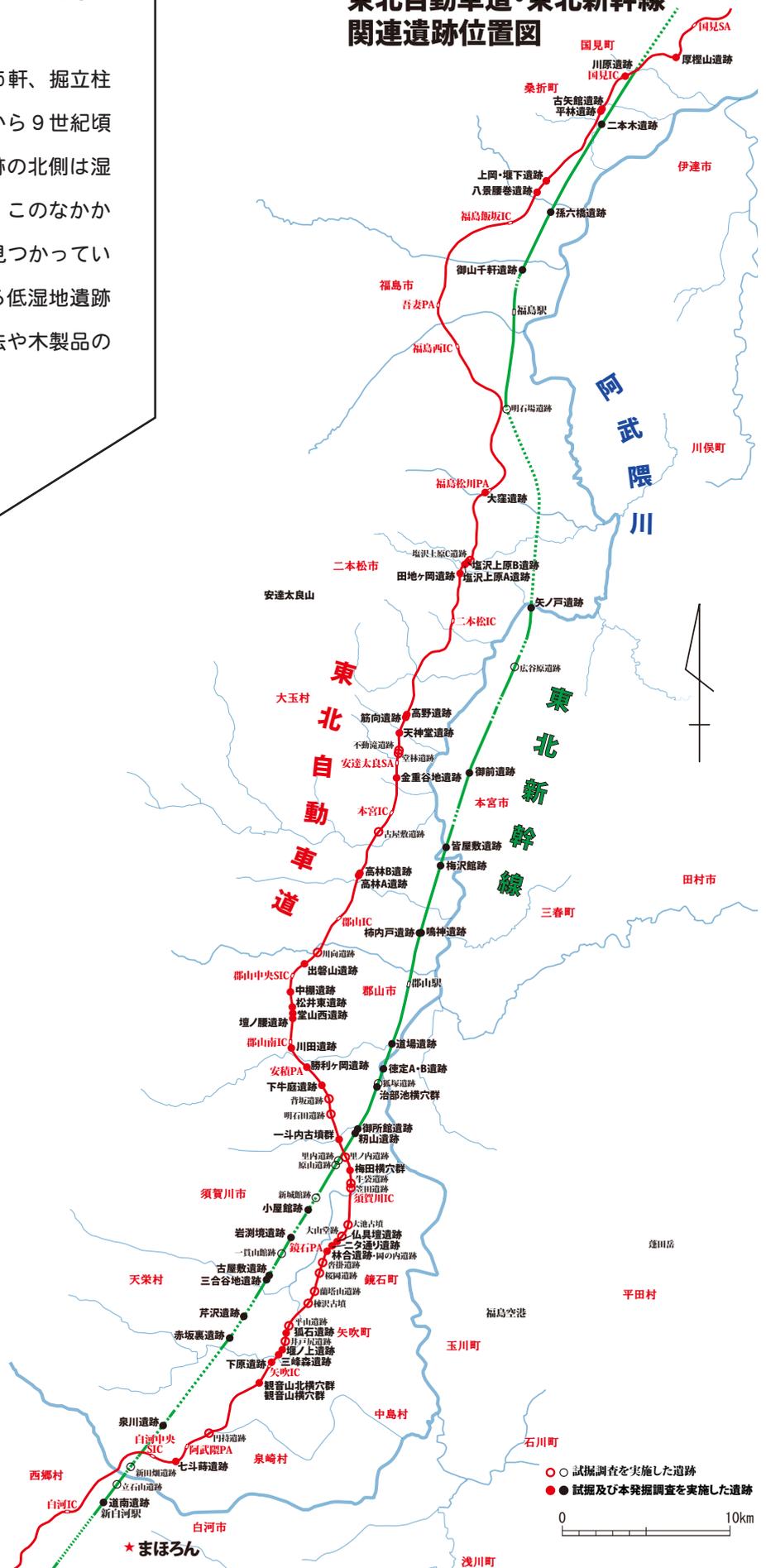


御山千軒遺跡位置図（25000分の1）

た伏流水が湧く泉や湿地が点在していたものと考えられています。

見つかった遺構は竪穴住居跡25軒、掘立柱建物跡6棟などで、7世紀後半から9世紀頃と推定されています。また、遺跡の北側は湿地性の遺物包含層となっており、このなかから9世紀後半頃の木製品が多数見つかります。本遺跡は、福島県における低湿地遺跡調査のさきがけとなり、調査方法や木製品の保存技術などが検討されました。

東北自動車道・東北新幹線 関連遺跡位置図



1 東北自動車道関連調査遺跡一覧

【記録保存となった遺跡】

No.	遺跡名	所在地	発掘調査期間	発掘担当者	調査員	報告書執筆者	主な時代	主な遺構・遺物	報告書
1	平林遺跡	桑折町南半田	1972.9.25～10.17 (1次) 1973.4.16～5.17 (2次)	横山英介 (1次) 渡辺一雄 (2次)	長尾修・赤井知志子・岡村道雄・千葉英一・佐久間豊 辻秀人 (1次) 木本元治・千葉英一・長尾修・赤井知志子・高倉敏明・佐藤満夫・志賀豊徳 (2次)	岡村道雄・千葉英一・木本元治	旧石器・縄文	石器 428 点ほか	本報告
2	檀ノ腰遺跡	郡山市大槻町	1970.11.1～11.10	永山倉造	岩田敏久・武田奥一・吉田幸一・有我幸一	永山倉造, 吉田幸一, 木本元治	縄文	竪穴住居跡1	本報告・概報2「坦ノ腰遺跡」
3	八景塚遺跡	福島市飯坂町	1972.6.19～11.28 (1・2・4次) 1972.11.20～12.19 (3次) 1973.4.16～5.8 (5次)	渡辺一雄 (1・2次) 加藤孝【東北学院大学】 (3次) 横山英介 (4次) 目黒吉明 (5次)	長尾修・柴田俊彰・藤田定興・鈴木啓・相馬胤道・富田晴夫・赤井知志子・千葉英一・八重樫良信 (1・2・4次) 高橋勇治・阿部正光・伊藤正人・橋本博幸 (3次) 野崎準・八巻一夫・寺島文隆・大越忠士 (5次)	(1・2・4次) 渡辺一雄・長尾修・八巻一夫 (3次) 高橋勇治・阿部正光・渡部幸雄・橋本博幸・伊藤房枝・田中礼子 (5次) 野崎準・目黒吉明	縄文 中世	竪穴住居跡6 土坑 24 土器埋設遺構5 溝跡1 石敷遺構1	本報告
4	塩沢上原 A 遺跡	二本松市塩沢	1971.7.11～7.31	目黒吉明	木本元治・一條孝夫	目黒吉明, 木本元治, 一條孝夫, 森賢喜, 柴田俊彰, 芳賀寿幸, 渡辺寿子, 渡辺幸子	縄文	竪穴住居跡 20 土坑 10	本報告・概報 3
5	塩沢上原 B 遺跡	二本松市塩沢	1971.11.23～11.29 1972.7.31～8.12, 9.1～9.3, 9.6～9.11	永山倉造	岩田敏久・永山祐三・木本元治・吉田幸一・横山英介・渡辺一雄	永山倉造, 吉田幸一, 木本元治	縄文	竪穴住居跡9	本報告・概報 3
6	田地ノ岡遺跡	二本松市塩沢	1971.8.3～8.12, 8.18～8.27, 9.20～9.29, 9.30～10.6	梅宮茂	江藤吉雄・古川猛・八巻一夫・田中正能・木本元治	梅宮茂, 古川猛, 八巻一夫	縄文	竪穴住居跡 23 土坑 13 土器埋設遺構7	本報告・概報 3
7	川原遺跡	国見町小坂	1973.6.12～7.2	目黒吉明	木本元治・高倉敏明・八巻一夫・大越忠士	目黒吉明, 大越忠士, 高倉敏明, 鈴木敬治, 竹内貞子	縄文	遺物包含層1	本報告・工事中 不時発見
8	大蓬遺跡	福島市松川町	1972.8.22～8.28	目黒吉明	富田晴夫・森賢喜・一條孝夫・八重樫良信	目黒吉明, 佐藤満夫, 赤井知志子	縄文	竪穴住居跡2 土器埋設遺構6	本報告
9	一斗内古墳群	須賀川市越久	1969.11.8～11.20	梅宮茂	田中正能・永山倉造・古川明・斎藤誠・鈴木啓・渡辺功・加藤義久・永山祐三・有我一二	梅宮茂	古墳	円墳5	本報告・概報 1-6
10	観音山横穴群	泉崎村階瀬	1969.8.5～8.11	小滝利意	江藤吉雄・石井亘・遠藤輝之助・菊池隆	小滝利意	古墳	横穴墓 17	本報告・概報 1-1
10	観音山北横穴群	泉崎村階瀬	1971.5.4～5.8	成田克俊	木本元治・古川猛・石井亘・根本信如	木本元治	古墳	横穴墓 7	本報告・概報 3
11	梅田横穴群	須賀川市西川	1969.8.15～8.29	永山倉造	岩田敏之・渡辺功・小針隆雄・武田奥一	永山倉造, 遠藤義兵衛	古墳	横穴墓 11	本報告・概報 1-3
12	七斗崎遺跡	白河市萱根	1969.9.24～10.8	鈴木啓	藤田定興・村川友彦・江藤吉雄・日高務・金子誠三	鈴木啓, 野崎準	古墳	竪穴住居跡 7	本報告・概報 1-5
13	天神堂遺跡	大玉村玉の井	1971.11.25～12.6	小滝利意	菅野信朝・菊池貞次郎・大河内一二・三村信道	小滝利意	古墳	埴土遺構	本報告・概報 3
13	筋向遺跡	大玉村玉の井	1971.11.25～12.6	小滝利意	菅野信朝・菊池貞次郎・大河内一二・三村信道	小滝利意	古墳	埴土遺構	本報告・概報 3
13	高野遺跡	大玉村玉の井	1971.11.25～12.6	小滝利意	菅野信朝・菊池貞次郎・大河内一二・三村信道	小滝利意	古墳	埴土遺構	本報告・概報 3
14	下原遺跡 A・B	白河市大信下新城	1970.4.16～4.25 (A 地点) 1972.5.23～6.5 (B 地点)	鈴木啓	(A 地点) 藤田定興・村上友彦・古川猛 (B 地点) 横山英介・長尾修・熊田文雄	鈴木啓, 野崎準	奈良・平安	竪穴住居跡8 掘立柱建物跡1	本報告・概報 2
15	三輪森遺跡	矢吹町大和久	1970.5.7～5.18	成田克俊	藤田定興・村川友彦・古川猛	藤田定興, 村川友彦	奈良	竪穴住居跡1 溝跡1	本報告・概報 2
15	堰ノ上遺跡	矢吹町矢吹	1970.5.7～5.18	成田克俊	藤田定興・村川友彦・古川猛	藤田定興, 村川友彦	奈良	竪穴住居跡 2	本報告・概報 2
16	出磐山遺跡	郡山市片平町	1970.11.26～12.8	鈴木啓	古川猛・木本元治・鈴木守康・斎藤誠	鈴木啓, 木本元治	奈良	竪穴住居跡5	本報告・概報 2 「大磐山遺跡」
17	勝利ノ岡遺跡	郡山市三龍田町	1971.10.19～10.23	成田克俊	木本元治・古川猛・鈴木守康・田中正能	木本元治, 高倉敏明	奈良・平安	竪穴住居跡 6	本報告・概報 3 工事中不時発見
18	中棚遺跡	郡山市大槻町	1970.8.1～8.15	梅宮茂	田中正能・古川猛・鈴木安信	田中正能	奈良・平安	竪穴住居跡1 掘立柱建物跡2 竪穴状遺構 15	本報告・概報 2
19	林合遺跡	鏡石町仁井田	1970.8.5～8.13	渡辺一雄	菅原文也・鈴木重美・木暮幸雄・小針繁	渡辺一雄	奈良・平安	竪穴住居跡 10	本報告・概報2「岡の内・林合遺跡」

No.	遺跡名	所在地	発掘調査期間	発掘担当者	調査員	報告書執筆者	主な時代	主な遺構・遺物	報告書
20	二夕廻り遺跡	鏡石町鏡田	1970.8.22～8.29	永山倉造	岩田敏之・鈴木安信・高宮八郎・佐藤栄一・武田興一・永山倉造	奈良・平安	竪穴住居跡1 竪穴住居跡3	本報告・概報2	
21	仏具遺跡	鏡石町鏡田	1970.9.5～9.7	馬目順一	松本友之・鮫島和弘・永山直・高木凡夫	奈良・平安	竪穴住居跡1	本報告・概報2	
22	狐石遺跡	矢吹町矢吹	1970.6.5～6.12	成田克俊	古川猛・藤田定興・村川友彦	奈良・平安	竪穴住居跡4 竪穴住居跡9 土坑3	本報告・概報2 本報告・概報3	
23	金重谷地遺跡	本宮市青田	1971.9.4～9.10	成田克俊	木本元治・古川猛・遠藤文吾・曾我伝吉・山崎清敏	平安	竪穴住居跡1 掘立柱建物跡	本報告・概報2	
24	高林遺跡	郡山市喜久田町	1970.12.12～12.19	成田克俊	木本元治・鈴木守康・田中正能・古川猛	平安	竪穴住居跡1 掘立柱建物跡	本報告・概報2	
25	厚懸山遺跡	国見町大木戸	1971.4.19～4.23	田中正能	鈴木安信・渡部正俊・古川猛	平安末	土塁・堀跡	本報告・概報3	
26	上岡・堰下遺跡	福島市飯坂町	1972.5.10～5.22	渡辺一雄	相馬胤道・横山英介・尾尾修・柴田俊彰	平安・中世	掘立柱建物跡	本報告・概報3 予備調査概報	
—	古矢館遺跡	桑折町南半田	1971.6.15～6.19 1971.10.25～10.30	永山倉造	岩田敏之・永山祐三・深谷忠喜・吉田幸一・木本元治・永山倉造・木本元治	中世	土塁・堀跡	本報告・概報3	
—	糠沢古墳	鏡石町久来石	1969.8.6～8.10	渡辺一雄	菅原文也・鈴木重美・木暮幸雄・小針繁	不明	塚跡	概報1-2のみ	
—	蘭塔山古墳	鏡石町久来石	1969.8.6～8.10	渡辺一雄	菅原文也・鈴木重美・木暮幸雄・小針繁	不明	塚跡	概報1-2のみ	
—	大地古墳	鏡石町鏡田	1969.8.20～8.26	目黒吉明	真室公一・丹羽茂・越田和夫・柴田俊彰	不明	塚跡	概報1-4のみ	
—	大山堂跡	鏡石町鏡田	1969.8.20～8.26	目黒吉明	真室公一・丹羽茂・越田和夫・柴田俊彰	不明	遺構なし	概報1-4のみ	
—	円持遺跡	白河市小田川	1969.9.24～10.8	鈴木啓	藤田定興・村川友彦・江藤吉雄・日高務・金子誠三	不明	遺構なし	概報1-5のみ	
—	里の内遺跡	須賀川市森宿	1969.11.8～11.20	梅宮茂	斎藤誠・古川明・田中正能	不明	遺構なし	概報1-6のみ	
—	牛袋遺跡	須賀川市西川	1969.12.3～12.5	鈴木啓	村川友彦・藤田定興・小針隆雄・武田興一	不明	遺構なし	概報1-7のみ	
—	笠田遺跡	須賀川市西川	1969.12.3～12.5	鈴木啓	村川友彦・藤田定興・小針隆雄・武田興一	不明	遺構なし	概報1-7のみ	
—	梅田遺跡	須賀川市西川	1969.12.6～12.8	鈴木啓	村川友彦・藤田定興・小針隆雄・武田興一	不明	遺構なし	概報1-7のみ	
—	背坂遺跡	須賀川市仁井田	1969.12.5～12.11	渡辺一雄	菅原文也・鈴木重美・小針繁	不明	遺構なし	概報1-8のみ	
—	明石田遺跡	須賀川市仁井田	1969.12.5～12.11	渡辺一雄	菅原文也・鈴木重美・小針繁	不明	遺構なし	概報1-8のみ	
—	井戸尻遺跡	矢吹町大和久	1970.5.7～5.18	成田克俊	藤田定興・村川友彦・古川猛	奈良・平安	竪穴住居跡2	概報2のみ	
—	不動城遺跡	鏡石町久来石	1970.6.5～6.12	成田克俊	古川猛・藤田定興・村川友彦	不明	遺構なし	概報2のみ	
—	桜岡遺跡	鏡石町久来石	1970.7.6～7.10	成田克俊	村川友彦・藤田定興	不明	遺構なし	概報2のみ	
—	雀掛遺跡	鏡石町笠石	1970.7.6～7.10	成田克俊	村川友彦・藤田定興	不明	遺構なし	概報2のみ	
—	香山西遺跡	郡山市大槻町	1970.11.8～11.9	永山倉造	岩田敏久・武田興一・吉田幸一・有我幸一	不明	遺構なし	概報2のみ	
—	松井東遺跡	郡山市大槻町	1970.11.1～11.3	永山倉造	岩田敏久・武田興一・吉田幸一・有我幸一	不明	遺構なし	概報2のみ	
—	下牛庭遺跡	郡山市安積町	1970.11.24～11.30	小滝利意	田中正能・永山裕三・鈴木安信・岩田敏之	不明	遺構なし	概報2のみ	
—	川田遺跡	郡山市安積町	1970.11.26～11.28	小滝利意	田中正能・永山裕三・鈴木安信・岩田敏之	不明	遺構なし	概報2のみ	
—	川向遺跡	郡山市片平町	1970.11.28	鈴木啓	古川猛・木本元治・斎藤誠	不明	遺構なし	概報2のみ	
—	笠林遺跡	大玉村玉の井	1971.6.14～6.17	小滝利意	木本元治・三村信道・菅野信朝・菊池真次郎	不明	遺構なし	概報3のみ	
—	不動城遺跡	大玉村玉の井	1971.6.14～6.17	小滝利意	木本元治・三村信道・菅野信朝・菊池真次郎	不明	遺構なし	概報3のみ	
—	古盛敷遺跡	本宮市関下	1971.8.20～8.24	西徹雄	堀込静雄・佐藤俊雄	縄文・平安	竪穴住居跡1 特殊遺構1	概報3のみ	
—	出磨山遺跡B	郡山市片平町	1971.10.7～10.16	成田克俊	木本元治・古川猛・越田和夫・田中正能・鈴木守康	奈良	竪穴住居跡3	概報3(上取場跡)	
—	塩原上原C遺跡	二本松市塩沢	1971.11.23～11.29	永山倉造	岩田敏之・永山裕三・木本元治	不明	遺構なし	概報3のみ	

【現状保存もしくは移設保存となった遺跡】

遺跡名	所在地	調査者
観音山摩崖仏像群 (県指定史跡)	泉崎村階瀬	田中正能
万正寺中世墓跡	桑折町万正寺	梅宮茂
厚懸山三十三観音・ 八十八大師面像群 (町有形民俗文化財)	国見町大木戸	田中正能

【確認調査後に慎重工事となった遺跡】

遺跡名	所在地	調査者
一向遺跡	西郷村米	田中正能
二ツ堂竪穴	泉崎村大田川	小滝利意
姫鶴内古墳	白河市小田川	永山倉造
岡ノ台遺跡	鏡石町久来石	小滝利意
宮ノ前遺跡	鏡石町久来石	小滝利意
塚ノ原遺跡	二本松市杉田	中村五郎
高神遺跡	二本松市杉田	中村五郎
井戸遺跡	福島市松川町	渡辺一雄
西久保遺跡	福島市平石	小滝利意

2 東北新幹線開通調査遺跡一覧

【記録保存となった遺跡】

No.	遺跡名	所在地	発掘調査期間	発掘担当者	調査員	報告書執筆者	主な時代	主な遺構・遺物	報告書
1	道南遺跡	西郷村小田倉	1973.7.3～8.8 (1次) 1974.6.10～7.26 (2次) 1976.11.24～12.15 (3次)	鈴木啓 (1次) 渡辺一雄・鈴木啓 (2次) 木村浩二 (3次)	寺島文隆・木本元治 (1次) 木村浩二・篠原信彦・鈴木實夫 (2次) 木村浩二・芦名守道・寺島文隆 (3次)	高橋信一・鈴木啓・木本元治・藤間典子	古墳	竪穴住居跡4	報告 I
2	泉川遺跡	白河市小田川	1973.10.8～11.15	目黒吉明	木本元治・八巻一夫・長尾修・佐藤満夫	目黒吉明・鈴鹿八重子・藤間典子・鈴木正男	縄文	土坑 26 基 集石遺構3	報告 I
3	赤坂裏遺跡	白河市大信中新城	1973.6.4～7.6、9.3～9.7	渡辺一雄	赤井畑まき子・佐藤満夫・高倉敏明・寺島文隆・長尾修・野崎準	木本元治・藤間典子	平安	竪穴住居跡3	報告 I
4	芹沢遺跡	天栄村小川	1973.3.5～3.17	渡辺一雄	鈴木啓・相馬胤道・長尾修	藤間典子・木本元治	奈良	竪穴住居跡1 掘立柱建物跡1	報告 I
5	三合谷地遺跡	天栄村高林	1976.6.23～7.21	木本元治	志賀豊徳・高倉敏明・根本信孝	木本元治・藤間典子	平安	掘立柱建物跡1 溝跡2	報告 I
6	古盛靴遺跡	天栄村飯豊	1973.5.28～6.5、9.3～9.23	目黒吉明	木本元治・高倉敏明・八巻一夫・大越忠士	藤間典子・木本元治	奈良・平安	竪穴住居跡3 掘立柱建物跡1	報告 I
7	岩湖鏡遺跡	須賀川市岩淵	1973.11.14～12.5 1974.1.28～2.8	木本元治・野崎準	大越忠士・高倉敏明・寺島文隆	木本元治・鈴鹿八重子・藤間典子	奈良・平安	竪穴住居跡2 掘立柱建物跡3	報告 I
8	治部池横穴墓群	須賀川市津川	1973.10.1～10.24、12.6～12.26	渡辺一雄	大越忠士・高倉敏明・寺島文隆・野崎準	高橋信一・渡辺一雄・木本元治・藤間典子	古墳・奈良	横穴墓 18	報告 I
9	榎山遺跡	須賀川市森宿	1978.4.17～6.14	生江芳徳	高倉敏明・鈴木實夫	高橋信一・生江芳徳・藤間典子	中世	板碑群	報告 II
10	御所館遺跡	須賀川市森宿	1978.4.7～6.14	木本元治	篠原信彦・橋本博幸	木本元治・藤間典子	平安	竪穴住居跡2 木炭焼成遺構1	報告 II
11	道場遺跡	郡山市安積町	1975.4.15～5.10	渡辺一雄	長尾修・志賀豊徳・野崎準・鈴木實夫	藤間典子・高橋信一・木本元治	奈良・中世	竪穴住居跡4 塚状遺構1	報告 II
12	梅沢館跡	郡山市市和町	1975.9.22～12.12	目黒吉明	大越道正・橋本博幸・寺島文隆・志賀豊徳・長島雄一	木本元治・菅野順子・藤間典子	中世	掘跡	報告 II
13	皆盛靴遺跡	郡山市西田町	1973.11.19～12.12 (1次) 1975.6.23～8.29 (2次)	目黒吉明	長尾修・佐藤満夫・八巻一夫 (1次) 寺島文隆・大越道正・志賀豊徳・橋本博幸 (2次)	木本元治・鈴鹿八重子	平安	竪穴住居跡3 掘立柱建物跡4	報告 II
14	御前遺跡	本宮市糠沢	1973.8.1～8.5	西徹雄	山田廣・野崎準・高倉敏明	木本元治・菅野順子・藤間典子	近世	塚跡	報告 II
15	孫六橋遺跡	福島市宮代	1976.4.12～6.18	木本元治	高倉敏明・志賀豊徳・根本信孝・大越道正	木本元治・藤間典子	弥生・平安	竪穴住居跡2 土坑	報告 II
16	二本木遺跡	桑折町南半田	1978.4.17～8.17	目下高善己・(生江芳徳)	寺島文隆・木村浩二・高倉敏明・鈴木實夫・篠原信彦・橋本博幸	鈴鹿八重子・目下高善己・藤間典子	縄文～近世	土坑 331 溝跡9	報告 II
17	徳定遺跡 A・B	郡山市市田村町	1972.10.30～12.4 (A 遺跡) 1974.9.9～12.6 (B 遺跡) 1975.4.9～5.9、6.2～6.20、8.18～12.19 (B 遺跡)	渡辺一雄	鈴木啓・相馬胤道・横山英介・長尾修・赤井畑まき子・田中正能・鈴木安信・永山倉造・渡辺功・坪池忠夫・菅野佑市 (A 遺跡) 長尾修・高倉敏明・八巻一夫・吉田幸一・鈴木實夫 (B 遺跡)	木本元治・菅野順子・鈴木文雄・高橋典子・高橋典子・長島雄一	縄文～平安	竪穴住居跡 15 (A 遺跡) 竪穴住居跡 34 (B 遺跡)	報告 III
18	矢ノ戸遺跡	二本松市安達ノ原	1974.11.11～12.13 (1次) 1975.10.20～12.25 (2次) 1976.4.12～7.16 (3次) 1976.7.16～11.18 (4次)	目黒吉明 (1次) 木本元治 (2次) 目黒吉明・生江芳徳 (3次) 生江芳徳 (4次)	吉田幸一・芦名守道・木村浩二・篠原信彦 (1次) 八巻一夫・芦名守道・木村浩二・篠原信彦 (2次) 寺島文隆・芦名守道・木村浩二・鈴木實夫 (3次) 寺島文隆・八巻一夫・高倉敏明・芦名守道・木村浩二・篠原信彦・鈴木實夫・根本信孝・橋本博幸 (4次)	木本元治・鈴鹿八重子・高橋典子・鈴木文雄・高橋典子・高橋典子・氏家浩子・只戸美智子・廣岡敏	古墳～平安	竪穴住居跡 21 掘立柱建物跡 6	報告 IV

No.	遺跡名	所在地	発掘調査期間	発掘担当者	調査員	報告書執筆者	主な時代	主な遺構・遺物	報告書
19	小屋館跡	須賀川市松塚	1975.1 (地形測量)	渡辺一雄		渡辺一雄	中世	土塁・堀跡	報告IV
20	鳴神・柿内戸遺跡	郡山市富久山町	1974.4.15～12.13 (鳴神1～4次) 1975.4.19～6.6 (鳴神5次) 1975.6.18～10.9 (柿内戸1次) 1976.6.14～10.15 (柿内戸2次) 1977.4.18～11.30 (柿内戸3次)	木本元治 (鳴神1・3 ～5次、柿内戸1次) 目黒吉明 (鳴神2次) 菅原文也 (柿内戸2次) 生江芳徳 (柿内戸3次)	日下部善己、長尾修、寺島文隆、八巻一夫、高倉敏明、 吉田幸一、大越道正、芦名守道、中山晋、鈴木實夫、 宏幸、矢戸美智子、廣岡敏	木本元治、竹谷陽二郎、氏家浩子、鈴鹿八重子、石井 繻文、奈良・平 安	中世	竪穴住居跡20 (鳴神地区) 竪穴住居跡29 (柿内戸地区)	報告V
21	御山千軒遺跡	福島市御山	1977.4.19～12.23	木本元治、日下部善己	高倉敏明、鈴木實夫、根本信孝、寺島文隆、木村浩二、渡辺一雄、木本元治、竹谷陽二郎、氏家浩子、佐藤友 之、矢戸美智子、鈴木幸彦	木本元治、竹谷陽二郎、氏家浩子、鈴鹿八重子、森幸彦	奈良・平安	竪穴住居跡25 遷地在遺物告書欄	報告VI

【確認調査後に工区変更により保存になった遺跡】

遺跡名	所在地	調査状況	対応等
— 板小倉遺跡	白河市小田川	分布調査のみ	トンネルにつき、調査 対象除外
— 新田畑遺跡	白河市飯沢	分布・確認調査のみ	トンネルにつき、調査 対象除外
— 向の原遺跡	須賀川市森宿	分布調査のみ	路線から除外

【確認調査後に慎重工事となった遺跡】

遺跡名	所在地	調査期間	備考
— 原山遺跡	須賀川市西川	1974.8.19～8.23	遺構・遺物なし
— 広谷原遺跡	二本松市沖	1974.8.19～8.30	遺構・遺物なし
— 里内遺跡	須賀川市森宿	1978.6.15～7.4	遺構・遺物なし
— 立石山遺跡	白河市昭和町	分布・確認調査のみ	慎重工事
— 一貫山館跡	須賀川市保土原	分布・確認調査のみ	慎重工事
— 新城館跡	須賀川市福	分布・確認調査のみ	慎重工事
— 狐塚遺跡	郡山市安棟町	分布・確認調査のみ	慎重工事
— 明石場遺跡	福島市平石	分布調査のみ	すでに削平